

第3日曜日に掲載

# 研究、趣味…老若男女が熱心に



▲長崎史談会の講座で使用したテキストの一部



長崎史談会の古文書講座

—長崎市中央公民館

長崎史談会の古文書講座  
長崎市中央公民館  
（田代菜津美）

「おおせつけられ、ござい  
きんかぎり、あいつとめそ  
ろう…」。講座は、原田会長  
が読み上げ、参加者が聞くと  
いうスタイル。まずきちんと  
した読み方を覚え、我流にな  
るのを防ぐという。随所で原  
田会長の豊富な歴史の豆知識  
が語られ、より理解が深まる。

「おおせつけられ、ござい  
きんかぎり、あいつとめそ  
ろう…」。講座は、原田会長  
が読み上げ、参加者が聞くと  
いうスタイル。まずきちんと  
した読み方を覚え、我流にな  
るのを防ぐという。随所で原  
田会長の豊富な歴史の豆知識  
が語られ、より理解が深まる。

長崎史談会は、原田博一会  
長を講師に、市中央公民館(魚  
の町)で月2回公開講座を開  
いている。現在、上級者向け  
の講座に15人、初心者向けに  
39人が在籍している。

## 公用文の書体

テキストとして古文書のコ  
ピーとそれらを活字にした資  
料が配られた。開いてみると、  
最初の文字から何が書いてあ  
るのか見当もつかない。「実  
際には私たちが書くのは『ぶん  
しょ』。『もんじょ』と読む  
と、古い時代を知る上で貴重  
なものなんです」。講座の初  
め、原田会長がこれから学ぶ  
古文書の定義を解説した。

1630年代、幕府が公用  
文に使つ文字の書体を、京都  
の青蓮院に伝わる「御家流」  
に規定。全国的に書体が統一  
され、識字の向上に大きな効  
果があった。講座でも、御家  
流で書かれた近世の文書を読  
み解いている。原田会長は「こ  
れをマスターすると、全国各  
地の公用文を読めるようにな  
れる」と語った。

「おおせつけられ、ござい  
きんかぎり、あいつとめそ  
ろう…」。講座は、原田会長  
が読み上げ、参加者が聞くと  
いうスタイル。まずきちんと  
した読み方を覚え、我流にな  
るのを防ぐという。随所で原  
田会長の豊富な歴史の豆知識  
が語られ、より理解が深まる。

## 公用文の書体

古代から「もんじょ」はあ  
り、聖徳太子の時代には上流  
階級の人々は文字が読めたと  
いう。平安時代には片仮名や  
平仮名が作られた。だが、自  
分の気持ちを自在に字で表す  
ことができるほどに読み書き  
が普及したのは、江戸時代に  
入ってからという。

戸智浩さん(30)は先祖代々  
伝わる古文書を読めるようにな  
りたいと昨年11月に始めた。  
「最初は苦行だったが、少し  
ずつ読めるようになったかな。  
先祖の古文書を読んで、論文  
を書きたい」と抱負を語る。

約1時間半の講座。初めは、  
原田会長がどこを読んでいる  
のかさうも分からなかつたが、  
次第に目で追うことができる  
ようになった。原田会長は「2  
年くらいはじつくり取り組む  
こと。歴史の新たな事実を知  
るには、生の古文書にあたる  
しかない」と学ぶ意義を話す。

「おおせつけられ、ござい  
きんかぎり、あいつとめそ  
ろう…」。講座は、原田会長  
が読み上げ、参加者が聞くと  
いうスタイル。まずきちんと  
した読み方を覚え、我流にな  
るのを防ぐという。随所で原  
田会長の豊富な歴史の豆知識  
が語られ、より理解が深まる。

## 長崎の古文書講座

日頃、歴史をテーマに取材していると、古文書をする機会が多い。そして、専門家や、一般の歴史好きの人たちがそれらを読みこなす姿を目の当たりにする。古文書を読めたら、どんな世界が広がるのだろう。長崎市で開かれている古文書講座に参加した。



長崎歴史文化博物館の古文書講座  
—長崎市、同館